

## 令和5年度 第10回「河内地区 白山市ミライ会議」概要

日 時：令和5年8月26日（土） 10：00～11：00

場 所：かわち保健センター

参加団体等：河内区長会、河内地区団体代表連絡協議会、体育協会河内支部、社会福祉協議会、シルバー人材河内支部、河内地区団体代表者連絡協議会、祭り実行委員会事務局、扇踊り保存会、公民館長など

### 発言【1】

- (1) シルバー人材センターで、公共の場所（墓地公苑）の草刈りをしている。市からの指示がなく、刈れずにいる間にシルバー以外の方が先に草を刈った。その後、シルバーに指示があり草を刈った。それを見た人に、シルバーは税金の無駄遣いをしているのではないかと言われた。市役所の担当課の人は、現場を見て判断をしてほしい。
- (2) 各地区区長会が来年度に向けて出した要望を出す、答えは「次年度に繰り越し」次の年には「今年度の予算を見て対応する。」との回答である。「次年度にやります」というように具体的に回答してもらいたい。

### 【市】

- (1) 市営墓地の除草については、予算の範囲内で実施しております。今年度は、予想以上に草が成長したため、狭間の時期に鳥越サービスセンターで草刈りを実施した事もあり、そのような意見があったと思われまます。  
今後は、梅雨明けやお盆、お彼岸前の早い時期に現地を確認し、速やかにシルバー人材センターへ発注したいと思えます。
- (2) 来年度の予算については、議会の了解を得なければ出せないものもあり、どうしても時間が掛かってしまいます。ご理解をお願いします。

### 発言【2】

- (1) 昨年の8月の大雨の被害を受けて思ったことがある。スーパーコンピューターを活用して科学的根拠に基づくハザードマップを作してほしい。
- (2) 市として防災マニュアルを出しているが、ほとんど山麓の住人には、関係がない内容。山麓では、下手に避難すると二次災害が起こる恐れがある。だから下手に動かないほうがいい。地域の特性に応じた防災対策を真剣に考えてほしい。

## 【市】

- (1) 浸水等による被害想定を科学的に行うことは難しいのですが、現在の山ろくハザードマップの情報に加え、小規模河川の浸水想定区域図を作成しました。そのため今年度から、洪水に内水・津波・土砂災害を加えたハザードマップの作成を進めており、地域の特性を考慮した、より精度の高いものとなるよう取り組んでいるところです。

ハザードマップで想定される最大規模の浸水箇所や浸水深などを確認し、安全に非難行動を行えるように日頃から備えていただき、新しいマップを用いて、より高い精度で避難等をご検討いただきたいと考えております。

- (2) 本市は市域が広く、それぞれの地域において自然環境などの諸条件に違いがみられることから、想定される災害の種別も地域によって異なります。

また、市内で災害が発生した場合、その災害種別や被害規模に応じ、それぞれの地域において、異なる対応が求められることも予想されます。

このようなことを踏まえ、市内の各地区や町内会等では、それぞれの地域の特性や想定される災害種別に応じた防災訓練等が行われています。市といたしましても、このような取り組みを積極的に支援してまいりたいと考えております。

なお、災害時における避難に当たっては、避難所への避難にとらわれることなく、周囲の状況をよく確認し、ご自身の安全を最優先に命を守る行動をとっていただきますようお願いいたします。

## 発言【3】

- (1) 地域コミュニティ組織を28地区でつくるということで進んでいる。令和6年度に、28地区が全部で出揃うということの間違いないか。予算配分など、どのようにするのか。
- (2) 国の異次元の少子化対策は、動きが遅い。国の予算を待つのではなく、市独自でお願いしたい。給食の無償化に加えて、学童保育の利用料の無料化も考えてほしい。
- (3) 山ろく地域では、ますます過疎が進んでいくと危惧している。世界ジオパークに認定されたが、河内を含め、山ろく地域で、どういう方向で事業をすすめるのか。

## 【市】

- (1) 令和5年度11月現在における地域コミュニティ組織の設立状況は13地区

であり、その他の地区においても令和6年度からのスタートに向けて協議していただいているところです。

また、令和6年4月からの（仮称）地域コミュニティ推進交付金については1組織あたり年間の上限額50万円を交付している地域コミュニティ活動支援補助金に、従来の公民館活動事業費などを加えることを予定しています。予算配分については、現在の事業費の水準は確保することを基本とし、人口に応じた加算も検討しています。

〔 令和6年度からの地域コミュニティ組織の実施体制や交付金に関する説明会の実施  
・10月11日（水） 公民館対象説明会  
・10月18日（水） 地域コミュニティ組織等説明会 〕

- (2) 学童保育料の無料化は、少子化対策として有効ではありますが、予算規模を考慮すると現時点での実現は困難であると考えています。

子育て世帯全体に対する経済的負担を軽減するため、まずは、学校給食の無償化を実現させたいと考えています。

- (3) 白峰地域では、大学生が常時地域に入って、さまざまな活動をし、関係人口・交流人口を増やすことに取り組んでいます。

山ろく地域での人口減少は続いており、これまでも観光振興や移住施策を実施してきましたが、就業面や高校生以降の通学面でのニーズが難しいと考えています。

企業誘致にしてもコストや従業員の確保の面から困難な状況であることから、生活面の確保を優先的に行ってきたところです。世界ジオパークの認定は学術的な面の活用が期待されているものであり、大学等の研究機関による関係人口・交流人口の拡大につながるようPRしてまいります。

#### 発言【4】

- (1) 昨年8月の豪雨で、板尾不動滝へ行く登山道の橋が流された。去年、担当者と現場を見ながらの話では「新しく橋をつけても、大雨になれば、また流される」ということだった。それが、新しい橋をつけてもらえるという話を聞いたが、どうなのか。
- (2) 福岡の林道の下を通っているヒューム管の入り口が全部土砂で埋まってしまい、雨が降ると、林道に水があふれる。その水が反対側に流れ落ちて、林道の法面がえぐられてきている。このまま放置しておけば、林道がなくなってしまう

う。せめて土砂をあげて、水が今までどおり流れるようにならないか。

**【市】**

(1) 宿の岩登山道に架かる1番目の橋の踏板等に劣化が見られましたので、橋の踏板と垂木を全て取替え、安全に橋を渡れるようにしました。

同じく、宿の岩登山道に架かる2番目の橋が、昨年8月の集中豪雨で橋基礎や橋桁が流されました。橋の復旧について、登山道除草業務請負者（河内地区団体代表連絡協議会）と地元建設業者及び施設管理課で、現場の被害状況を確認しました。橋の復旧については、集中豪雨が発生した時、川の水量が大幅に増し、橋が流される恐れがあるので、橋を設置せずに、登山者が徒歩で川を渡れるよう段差部分に階段を設けるようにしました。

（登山道にある川は、幅が狭く、普段は水量が少ないので徒歩で川を渡れます。）

(2) 該当する2箇所について、土砂除去の工事を発注したところであり、年内に完了する予定です。

**発言【5】**

河内町福岡だけでなく、地域の林道の排水路が土砂で埋まって、雨が降ると、道路に水があふれ出ている。口直海の谷も同じ状態で、雨が降ると、谷からあふれた水が手取川第三ダムに流れ込んでいる。これは地域住民全体に影響することであり、もう一度現場を見て、地域全体の林道の状況を確認して、対応をお願いしたい。

**【市】**

市内林道は広範囲にわたり被害を受けており、順次復旧を進めているところで、未だ復旧できていないところにおいて、できる限り早期復旧に向けて取り組む予定をしております。口直海の林道についても、令和6年度に予算化して対応したいと考えています。

**発言【6】**

(1) 県内で、認知症のPETを行う病院が何カ所かあると聞いている。白山市のPETの助成金が、認知症のPETは確か2年に1回と記載されていたかと思う。2年に1回を、3～4年に1回にしてでも、助成額を拡充できないか。

(2) 白山市は、北陸鉄道石川線をどのように生かしていきたいのか。意見を聞きたい。

## 【市】

- (1) 白山市の PET 助成では、悪性新生物及び認知症を早期に発見し、早期治療につなげることを目的に実施しております。受診者数は年々増加傾向にあり、限られた予算の中で、より多くの方に受けていただけるよう PET の助成額は、据え置かせていただきたいと考えております。
- (2) 石川中央都市圏地域公共交通協議会での議論を踏まえ、8月30日に石川県知事のオブザーバー参加のもと、沿線自治体の首長が一堂に会し、鉄道での存続で合意しました。

令和6年1月に石川中央都市圏地域公共交通協議会を開催し、北陸鉄道線の存在価値を高める取り組み及び行政の関わり方を決定する予定をしております。